

▶ 日本分析化学会 2023 年度有功賞受賞

当社愛媛ラボラトリーの岩崎知子、松本弘和の二名が日本分析化学会「2023 年度有功賞」を受賞しました。いずれも 30 年以上の長きにわたり分析実務に従事し、豊富な経験と知識を活かしてお客様のご要望にお応えしてきた実績を認めていただいたものです。

岩崎は、樹脂物性評価を通じてお客様の製品の品質と製造プロセスの安定操業を支えてまいりました。また、お客様のご要望により海外製造拠点に赴き、現地の分析技術者を指導するなど、樹脂物性評価に関する社内外の人材育成に貢献いたしました。

松本は、有機・無機分析を中心に業務に従事するとともに、公害防止管理者の国家資格を取得して各種評価試料に応じた前処理や GC、ICP 等を用いた機器分析の条件最適化を行い、新たな手法や合理化法を開発・確立するなど幅広く第一線で活躍し、分析サービス面から社会に貢献いたしました。また、これまで蓄積した豊富な経験や分析技術を後輩へ技術伝承するなど、若手分析者の育成面にも精力的に取り組んでおります。

受賞した二名は、いずれも第一線で活躍するなかで、分析サービスを通して社会に貢献する側ら後進への技術伝承に尽力しております。常に自らの技術を磨くとともにお客様のご要望に真摯に応え挑戦する姿勢は当社の提供価値の礎となるものです。当社は、お客様に信頼されるパートナーを目指し、これからも研鑽して参ります。



愛媛ラボラトリー 岩崎



愛媛ラボラトリー 松本

主な投稿論文・口頭発表等 2022.12→2023.6

※所属名は投稿・発表当時のものです。

投稿論文

【マテリアル分野】

Honeycomb-Layered Oxides With Silver Atom Bilayers and Emergence of Non-Abelian SU (2) Interactions

Titus Masese*1,*2, Godwill Mbiti Kanyolo*3, Yoshinobu Miyazaki*4, Miyu Ito*4, Noboru Taguchi*5, Josef Rizell*1,*5, Shintaro Tachibana*6, Kohei Tada*1, Zhen-Dong Huang*7, Abbas Alshehaby*8, Hiroki Ubukata*9, Keigo Kubota*1, Kazuki Yoshii*1, Hiroshi Senoh*1, Cédric Tassel*9, Yuki Orikasa*6, Hiroshi Kageyama*9 & Tomohiro Saito*4 (*1 Research Institute of Electrochemical Energy, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), *2 AIST-Kyoto University Chemical Energy Materials Open Innovation Laboratory (ChEM-OIL), *3 Department of Engineering Science, The University of Electro-Communications, *4 Tsukuba Laboratory, Sumika Chemical Analysis Service (SCAS), Ltd., *5 Department of Physics, Chalmers University of Technology, *6 Graduate School of Life Sciences, Ritsumeikan University, *7 Key Laboratory for Organic Electronics and Information Displays and Institute of Advanced Materials (IAM), Nanjing University of Posts and Telecommunications (NUPT), *8 Department of Industrial Engineering, National Institute of Technology (KOSEN), Ibaraki College, *9 Department of Energy and Hydrocarbon Chemistry, Graduate School of Engineering, Kyoto University) [Advanced Science] (Wiley-VCH 発行), P2204672 (2022) (WEB 公開: <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/advs.202204672>) 新規に合成された Ag-Ni-Te-O 化合物について、当社の原子分解能 STEM により Ag イオンが 2 層連続で挿入された結晶構造が明らかとなった。Ag イオンの平均価数は 1 価より小さく、特殊な相互作用により Ag イオン同士が結びついたハニカム層状物質であり、電池材料をはじめとて様々な応用が期待される。

ラマンイメージングを用いた可視化分析

石竹美帆 (千葉ラボラトリー)

「JAIMA Season 171 号」((一社)日本分析機器工業会発行), P5-9 (2023) ラマンイメージングは、1 μm 以下の高い空間分解能で化学情報を可視化することができ、半導体、高分子、電池材料、医薬品、生命科学等のさまざまな分野の微細構造解析に広く用いられている。本稿では、ラマン分光法を用いたイメージング測定の特徴および評価事例を紹介した。

電極導電助剤の分散状態評価

木村 宏 (マテリアル事業部)

(書籍)「リチウムイオン電池の長期安定利用に向けたマネジメント技術」(樹技術情報協会発行), 第 10 章 第 5 節, P493-499 (2023) Li イオン電池の性能発揮には電極の合剤分散性が重要である。我々は分析を通して合剤分散性を数値化した結果、電池性能との関連性を見出すことができた。本稿では、導電助剤をはじめとした分散状態評価、電池特性との関連性、さらに電極塗布前の濃厚系スラリーの状態評価を紹介した。

危険性評価データに基づく安全対策と危険体感教育

小山泰弘 (マテリアル事業部)

「JETI」(株日本出版制作センター発行), 71 (5), P24-27 (2023) 化学品を安全に取り扱うためには、化学品の危険性を総合的に評価する必要がある。また、データに基づき評価するだけでなく、取得した化学物質の危険性評価データを作業者が適切に理解し、正しく運用できるよう、現場作業員や研究員向けの危険感受性を高める体感教育も重要である。

放熱材料の熱物性(熱伝導率, 熱膨張, 熱応力)の評価技術

栗石拓也 (マテリアル事業部)

(書籍)「次世代半導体パッケージの最新動向とその材料、プロセスの開発」(樹技術情報協会発行), 第 6 章 第 7 節, P574-584 (2023) ~ 2.XD, 3D 集積化と基板材料、封止・接合技術、放熱部材 ~」において、